

初級の技能実習評価試験に関するガイドライン

R P F 製造職種の技能評価試験実施機関に指定されています当工業会に学科試験の過去問（過去に出題された問題）が掲載されていないかの質問を多数寄せられています。
ご案内のように当職種は 2021 年 1 月 8 日付で追加が承認されました。しかしながら新型コロナウイルス感染拡大の影響で外国よりの入国制限が徹底化され、2021 年度は当職種での技能実習生は皆無でした。そのため技能評価試験が実施されておらず、過去問として掲載できるものはありません。

R P F 製造職種は追加された新職種であり、類似するような職種もないことから、技能実習評価試験の試験問題に関する質問に答え、試験問題の難易度に関する不必要な不安を取り除く観点から、初級の問題についてのガイドラインを掲載いたします。なおこのガイドラインで示された例題等は、基準、水準を示すためのものであり、必ずしも実際の試験に出されるかどうかは分かりませんので、ご留意のほどお願いいたします。

また学科試験問題用紙の 1 ページ目を公開します。受験者の受験番号、氏名を記入する必要があります。また受験に際しての注意項目を記載してありますので受験者の方へのご指導をお願いいたします。（なお注意項目等は試験当日にも試験監督官より受験者の方々へ口頭による説明が行われます。）

◎学科試験

1. 問題数は、20 問
2. 問題表記は、ひらがな・ローマ字併記
3. 回答形式は、真偽法（○×式）
4. 問題の読み上げは、試験監督者により各問 2 度の読み上げ
5. 出題範囲は、「R P F 製造能実習評価試験の試験科目及び範囲並びにその細目（試験基準）に記されています。学科試験については、1～10 項目あり、各級で修得すべき事項についての理解度を評価基準としています。初級では基礎的な技能及び知識に関する問題が出されます。
6. 出題例
 - ① あーるぴーえふは、せきたんのかわりとしてしよできます。
R P F wa sekitan no kawari toshite shiyodekimasu. (○)
 - ② あーるぴーえふは、ねんりょうとしてりよされます。
R P F wa nenryo toshite shiyousaremasu. (○)
 - ③ ー 省略 ー

- ④ あーるぴーえふのげんりょうとしてきんぞくをつかいます。
RPF no genryo toshite kinzoku o tsukaimasu. (×)
- ⑤ — 省略 —
- ⑥ しんなーがはいっているものはきけんです。
Shinna ga haitteiru mono wa kiken desu. (○)
- ⑦ — 省略 —
- ⑧ ぼうちゅうすぷれーはばくはつすることがあります。
Bochu supure wa bakuhatsu suru koto ga arimasu. (○)
- ⑨ — 省略 —
- ⑩ うけいれけんさとは、はいってくるげんりょうのけんさをする事です。
Ukeirekensa towa haittekuru genryo no kenensa o suru koto desu. (○)
- ⑪ — 省略 —
- ⑫ ふおーくりふとは、はいきぶつをとらつくからおろすときにつかいます。
Foukurifuto wa haikibutu o torakku kara orosutoki ni tsukaimasu. (○)
- ⑬ — 省略 —
- ⑭ せいけいきとはげんりょうをかためるきかいです。
Seikeiki towa genryo o katameru kikai desu. (○)
- ⑮ — 省略 —
- ⑯ かわいたはいきぶつにさわるときにはさぎょうようてぶくろをつけなくてもよい。
Kawaita haikibutsu ni sawaru tokiniha sagyoyou tebukuro o tsukenakutemo yoi. (×)
- ⑰ — 省略 —
- ⑱ さぎょうちゅう、あついときは、したぎだけでさぎょうしてもよい。
Sagyochu atsutoki wa shitagi dakede sagyou site yoi. (×)
- ⑳ さぎょうばのせいりせいとんはつきにいちどでよい。
Sagyoba no seiri seiton wa tukini ichido de yoi. (×)

◎実技試験

1. 問題数は、5問（将来変更される可能性があります）
2. 問題表記は、ひらがな・ローマ字併記
3. 試験方法は、製作等作業試験
4. 問題の読み上げは、試験監督者により各問2度の読み上げ
5. 出題範囲は、「R P F 製造能実習評価試験の試験科目及び範囲並びにその細目（試験基準）に記されています。初級では基礎的な技能及び知識に関する問題が出されません。出題される課題は、受検票とともに監理団体経由で事前にお知らせします。実習内容を復習する形で準備をしてください。

6. 出題概要

- ① 廃棄物の種類ごと（5種類：紙類、ペットボトル、金属、リチウム電池、軟質プラ）に仕分けを行い、所定の場所（入れ物）に保管する。
- ② 器具を使って塩ビ系プラスチックと非塩ビ系プラスチックの見分けを行う。また見分けた理由を答える。試験試料として塩ビ系および非塩ビ系ラップフィルムを使用する。
- ③ 5種類の原料が持つ発熱量ごとに仕分けを行う。基準値は6,000kcalで。ポイントは、発熱量の高いプラスチックが多く含まれているかどうかの判断力を評価します。試験試料として畳、食品トレー、インスタントラーメンの袋、段ボール紙、ラベルの抜きカス等々を使用する。
- ④ 3種類の有価物（金属類、鉄、銅、アルミ等々）を適切に判別し、仕分けできるか？
- ⑤ 安全作業を行うための保護具が適切に着用できるか。また作業着が適切に着用されているか安全点検をする。標準的な保護具の着用、および襟、袖口、靴紐等々はきちんとできているか評価されます。

以上の課題が受検票と一緒に送られてくるので、事前によく内容を確認してください。

作成日：2022年9月28日